

2017年11月16日

Nasic 学生情報センターグループ
株式会社 ナジック・アイ・サポート経営企画部 広報室 寺田
075-352-0122/090-9997-0457

「学生アルバイト実態調査 2017」報告

株式会社ナジック・アイ・サポート（本社：京都市下京区、代表取締役社長：長町基志）は、大学、短大、専門学校から委託を受け運営している「学生アルバイト情報ネットワーク」（学校別アルバイト情報サイト www.aines.net）の利用者並びに学生情報センターグループが管理する学校寮等の入寮者を対象として、2017年10月にアルバイトとインターンシップの実態調査を行いました。調査結果がまとまりましたので、概要をご報告申し上げます。

1. 学生は「カフェ」でのアルバイトを希望しているが、最も経験が多いのは「食事がメインの飲食店」

「試験監督やイベントスタッフなど短期アルバイト」を経験した学生は48.2%、今後希望するのは46.2%で、ともに1位でした。経験した職種は、「食事がメインの飲食店 35.0%」、「学習塾の講師 27.7%」、「倉庫内作業、配送、引っ越し、工場内作業 23.5%」と続いています。24.8%の学生がカフェでのアルバイトを希望しているが、経験した学生は13.2%であり、狭き門となっています。

2. 学生のアルバイトは1週間に20時間未満、土日中心で、平日は22時まで

1週間のアルバイト時間について質問したところ、「週10時間以上20時間未満」と回答した学生が最も多く46.9%で、「週10時間未満」の34.8%と合計すると週20時間未満は81.7%となっています。「土日祝などの休み」が66.4%であり、「授業終了後22時まで」が48.6%であることから、学業優先で、授業に差し支えない程度にアルバイトに従事していることがわかります。

3. 学生がアルバイトを選択するときに重視するのは、シフトの融通性、時給、自宅の近く

学生がアルバイトを選択する時に重視するのは、「シフトの融通性」が71.2%と高く、次に「時給が高い」、「勤務地が自宅の近く」、「興味のある仕事内容」となっている。「学校の近く」は15.2%と低い。アルバイトを辞めるきっかけも、1位が「シフトの都合が悪くなった」、2位が「学業との両立ができなくなった」と、学業や学生生活を優先する傾向が強い。

4. アルバイトを卒業するまで続けたい学生は31.2%、長期と短期アルバイトを組み合わせる学生は61.9%

「卒業するまで続けたい」に「1年以上続けたい」22.5%と「2年以上続けたい」5.4%を合計すると、59.1%が1年以上の継続を希望している。6か月以上だと合計85.9%となります。また、長期アルバイトをしながら短期アルバイトに取り組んでいる学生は32.4%、長期アルバイトに加えて今後短期アルバイトに取り組みたい学生が29.5%おり、合計すると61.9%。長期アルバイトは定着率が良く、短期のアルバイトを組み合わせるのが最近の学生の主流といえる。

5. 学生アルバイトを開始するのは学校生活に慣れた7月以降が多い

アルバイト開始時期は、入学後4月～6月に開始している学生が38.9%でした。7月以降に開始している学生が41.4%もあり、学生生活に十分慣れてからアルバイトを始める傾向があります。ここにも学業優先の傾向が表れています。

6. 学生ならではのアルバイト情報をスマホで求めており、紙情報は人気がない

「紙情報の方が便利」と回答した学生は2.3%しかおらず、「スマホでの情報入手」を支持した学生は48.5%でした。「学生ならではの情報」、「学生の勤務事情に合った仕事」を求める傾向も強く、学生はフリーターや主婦とは違った募集条件のアルバイトを、異なるメディアで探していると言えます。

7. 学生が希望する時給は全国で1,000円、関東で1,100円

現状の時給は全国で950円、関東で1,000円となっており、現状よりも50円から100円多い時給を希望しています。1,500円以上の時給を希望する学生は全国で10.7%、関東では17.8%もあり、優秀な学生の獲得は益々難しくなっています。

8. 2週間以上のインターンシップは有給が人気

「インターンシップに参加した」32.9%、「インターンシップに参加したい」46.0%を合計すると78.9%となり、インターンシップへの学生の関心の高さが窺えます。インターンシップは短期になるほど無給の希望が高く、2週間程度以上の長期インターンシップに関しては経済的な負担が無く、責任感を伴う実務が体験できる有給タイプの希望が強くなります。

※詳細は「学生アルバイト実態調査 2017」をご参照ください。

株式会社ナジック・アイ・サポートの概要（ナジック学生情報センターグループ）

設立：2001年 所在：京都市下京区

代表者：代表取締役社長 長町基志

コーポレートサイト：<https://www.nasic-is.co.jp/>

ナジック学生情報センターグループの概要（2017年4月1日現在）

創業：1975年 所在：京都市下京区

代表者：株式会社学生情報センター 代表取締役社長 吉浦勝博

従業員数：620名（グループ計）

事業内容：学生マンション事業、学校寮企画運営事業、学校公認学生アルバイト情報の提供、有給インターンシップ（ワークプレイズメント）、コーオプ教育の推進事業、社会貢献活動の支援事業

コーポレートサイト：(株)学生情報センター <http://www.nasic.co.jp/> <http://749.jp/>(学生マンション)

学生情報センターは、2016年11月14日より東急不動産ホールディングスの一員になりました。

ナジックは、国内唯一の学校公認アルバイト情報サイトの運営や有給インターンシップやコーオプ教育の推進及び留学生支援、また、学生マンションの管理運営や生活支援など学生生活の質の向上をトータルに支援しています。

学生アルバイト実態調査2017

■調査概要

- 調査実施時期** 2017年10月
- 調査対象** 1. 学生アルバイト情報ネットワークに登録している全国の国公立および私立大学、専門学校の学生 (回答数 869人)
2. 学生情報センターが管理する寮・住居の在住者 (回答数 318人)
- 回答数合計** 1,187人(有効回答数1,174人)
- 調査項目の概要** アルバイトに関連する項目

■目次

- P2.アルバイトの職種について
P3.アルバイトの時間について
P4.アルバイトへのニーズについて
P5.アルバイト時給について
P6.アルバイトと勤務期間と退職について
P7.アルバイトを探す時に利用するメディアについて
P8.学生アルバイト情報ネットワークの利用について
P9.インターンシップの参加状況について
P10.インターンシップ参加時期について
P11.インターンシップ形態について

■属性

●性別

性別	実数(人)	構成比
女	632	53.8%
男	542	46.2%
合計	1,174	100.0%

●所属

所属	実数(人)	構成比
学部生	1,004	85.5%
大学院生	126	10.7%
短大生	9	0.8%
専門学校生	29	2.5%
未詳	6	0.5%
合計	1,174	100.0%

●年齢

年齢	実数(人)	構成比
18歳	75	6.4%
19歳	202	17.2%
20歳	269	22.9%
21歳	242	20.6%
22歳	192	16.4%
23歳	85	7.2%
24歳	47	4.0%
25歳以上	62	5.3%
合計	1,174	16.5%

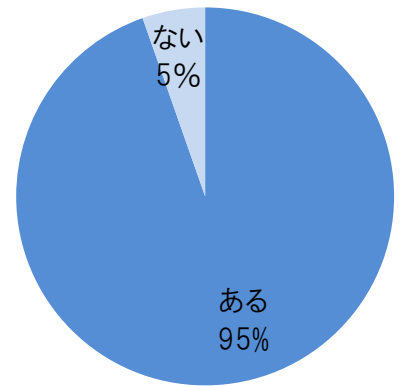
●文系、理系

文理区分	実数(人)	構成比
文系	639	54.4%
理系	463	39.4%
その他	72	6.1%
合計	1,174	100.0%

●学年

学年	実数(人)	構成比
1年	225	19.2%
2年	362	30.8%
3年	260	22.1%
4年	281	23.9%
5年以上	30	2.6%
未詳	16	1.4%
合計	1,174	76.9%

■アルバイト経験の有無(単一回答)



n=1173

■ 学生の人気ナンバー1は短期アルバイト

経験職種の1位は「試験監督やイベントスタッフなど短期アルバイト」であり、回答者の48.2%が経験したと回答している。また、希望職種の1位も「試験監督やイベントスタッフなど短期アルバイト」であり、46.2%が希望している。

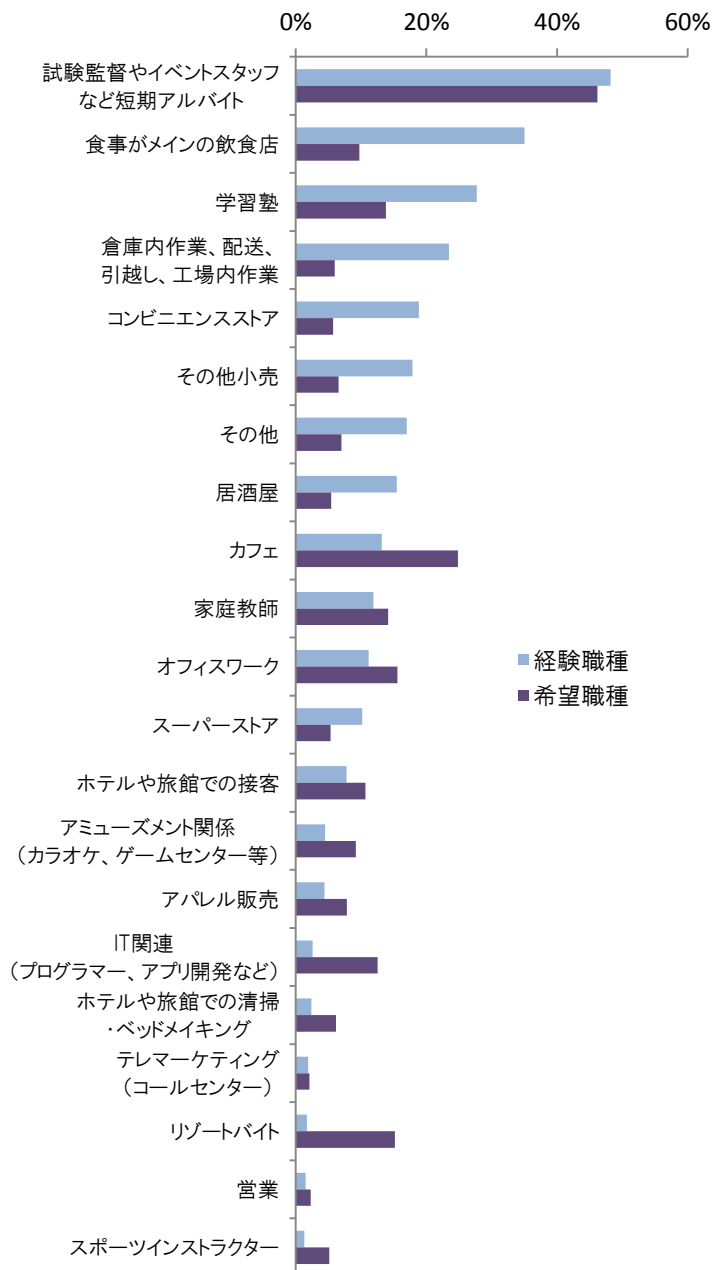
■ 「カフェ」の気持ちは高いが、実際は「飲食店」や「学習塾」、「作業系の仕事」に従事

希望職種として回答率が高いのは「カフェ」、「オフィスワーク」、「リゾートバイト」だが、実際に経験している職種は、「食事がメインの飲食店」が35.0%、「学習塾」が27.7%、「倉庫内作業、配送、引越し、工場内作業」が23.5%となっている。

■ 経験職種と希望職種(複数回答)

バイト名称	経験職種	希望職種
試験監督やイベントスタッフ など短期アルバイト	48.2%	46.2%
食事がメインの飲食店	35.0%	9.8%
学習塾	27.7%	13.8%
倉庫内作業、配送、 引越し、工場内作業	23.5%	6.0%
コンビニエンスストア	18.9%	5.7%
その他小売	17.9%	6.5%
その他	17.0%	7.0%
居酒屋	15.5%	5.4%
カフェ	13.2%	24.8%
家庭教師	11.9%	14.2%
オフィスワーク	11.2%	15.5%
スーパーストア	10.2%	5.3%
ホテルや旅館での接客	7.8%	10.7%
アミューズメント関係 (カラオケ、ゲームセンター等)	4.5%	9.2%
アパレル販売	4.4%	7.8%
IT関連 (プログラマー、アプリ開発など)	2.6%	12.5%
ホテルや旅館での清掃 ・ベッドメイキング	2.4%	6.2%
テレマーケティング (コールセンター)	1.9%	2.1%
リゾートバイト	1.7%	15.2%
営業	1.5%	2.3%
スポーツインストラクター	1.3%	5.2%

■ 経験職種と希望職種の相違グラフ



■ 進学後7月以降にアルバイトを開始する学生が41.4%

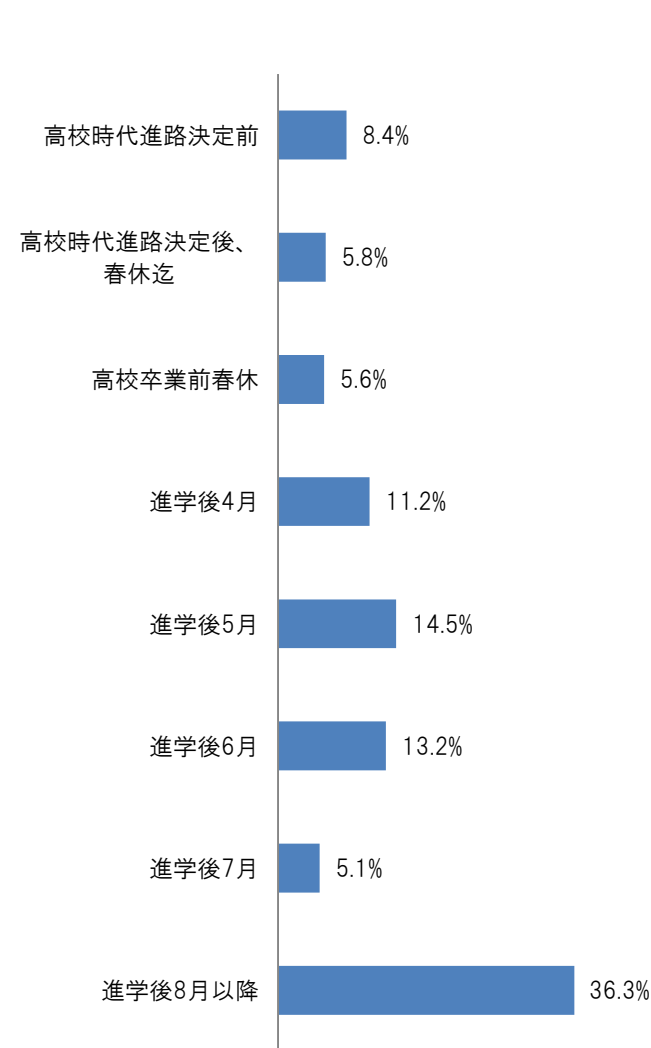
入学後4月～6月にアルバイトを開始している学生が38.9%に対し、7月以降に開始している者が41.4%となっている。学校生活に慣れてからアルバイトを開始する学生が多く、学業優先の傾向が表れている。

■ 学生のアルバイトは1週間に20時間未満で土日中心、平日は22時まで

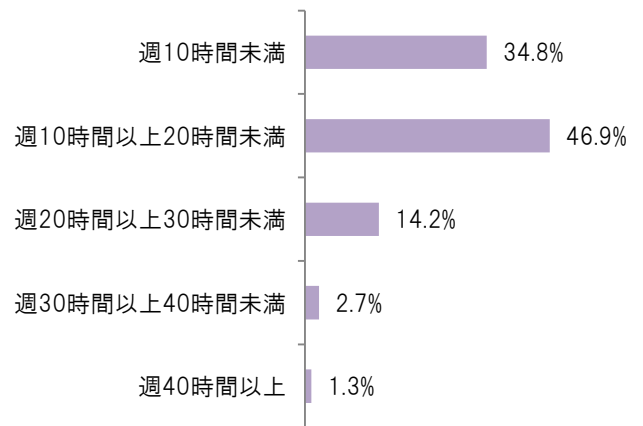
1週間のアルバイト時間について、「週10時間以上20時間未満」と回答した学生が46.9%で最も多く、10時間未満の34.8%と合計すると、81.7%が週20時間未満となっている。

「土日祝などの休み」が66.4%、平日は「授業終了後22時まで」が48.6%であり、ここにも学業優先の傾向が表れている。

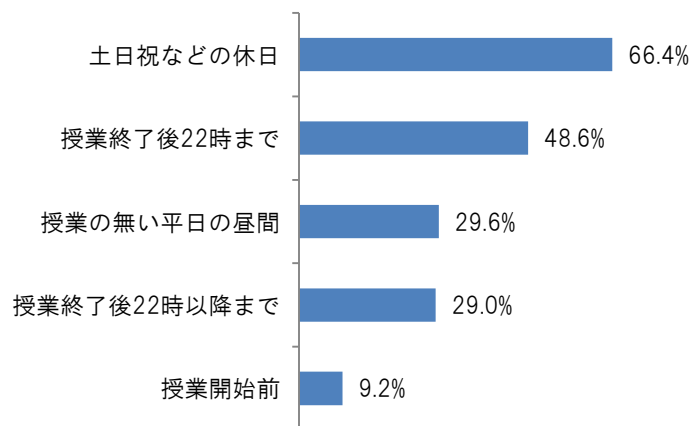
■ はじめてのアルバイト開始時期(単一回答)



■ 1週間のアルバイト時間(複数回答)



■ アルバイトの時間帯(複数回答)



アルバイトへのニーズについて

■ 学生のアルバイト選択基準は時給よりシフトの融通性、学校より自宅の近く

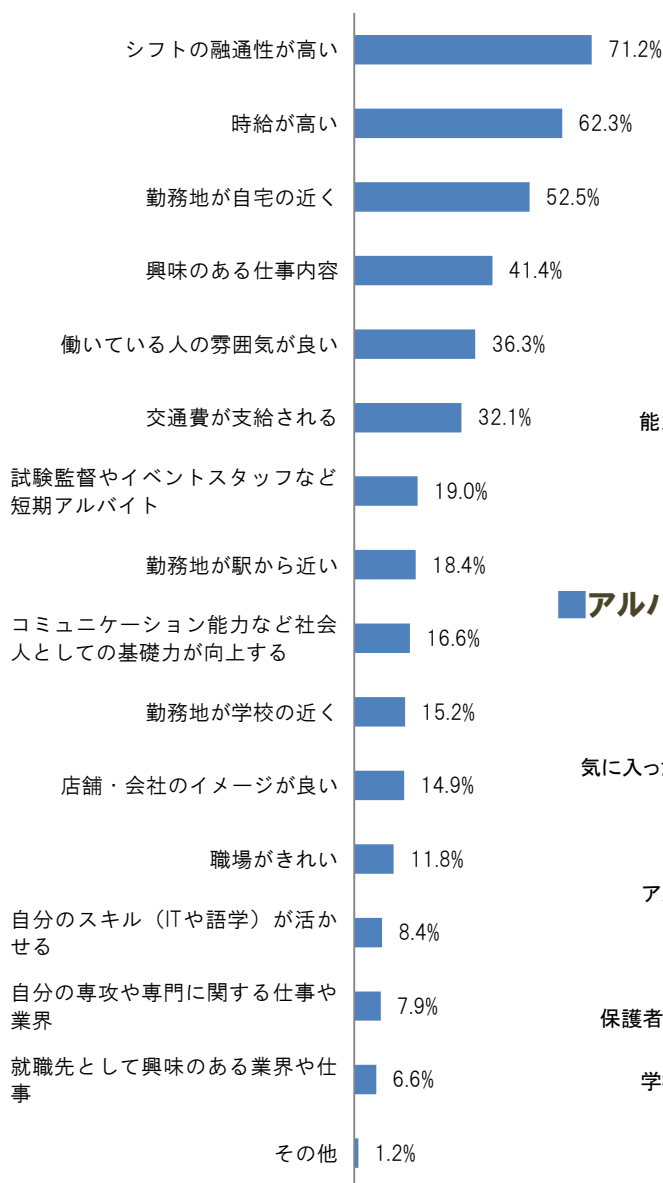
アルバイトをする時に重視する点について、「シフトの融通性が高い」を回答した学生が71.2%と最も多く、「時給が高い」62.3%を選択した学生よりも多かった。また、「勤務地が自宅の近く」52.5%の方が「勤務地が学校の近く」15.2%を大きく上回っている。

■ アルバイトで成長するのはコミュニケーション能力と協調性

「アルバイトで能力が身につかない」と回答した学生は6.6%と少なく、学生はアルバイトによって社会人基礎力の向上を実感しているといえる。

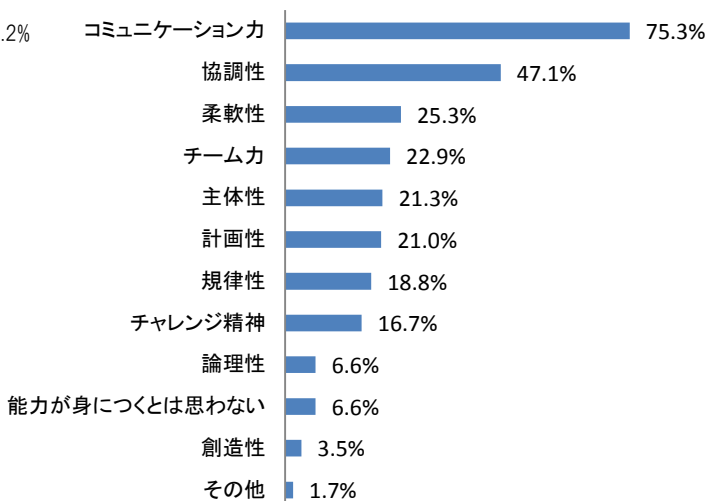
■ アルバイトをする時に重視する点(複数回答)

n=1100



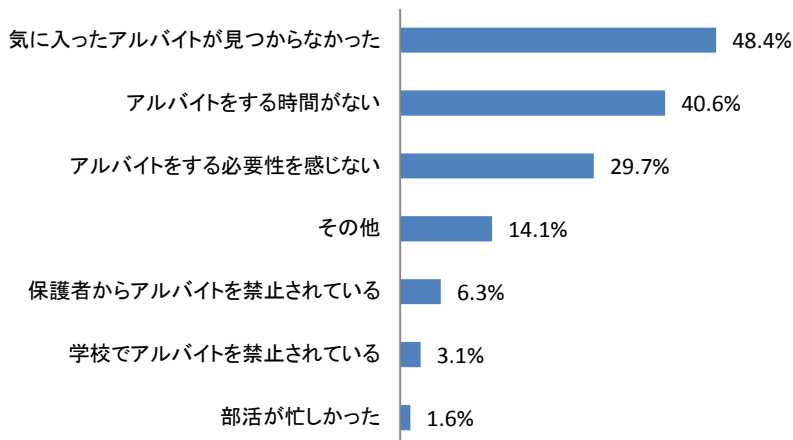
■ アルバイトで身についた(身につく)と思う力(複数回答)

n=1100



■ アルバイトをしない理由(複数回答)

n=64



アルバイト時給について

■ 学生アルバイトの時給は関東圏で1,000円、関東以外で950円

関東では、現状の平均時給、中央値ともに1,000円を超えており、時給1,000円以上が標準的な相場になっている。関東以外では中央値が950円となっており、エリアによる格差が見受けられる。

■ 学生が希望するアルバイトの時給は関東圏で1,100円、関東以外で1,000円

学生が希望する時給は、全国、関東、関東以外の全カテゴリーにおいて「1000円～1099円」39.3%が最も多くなっている。現状と希望時給とのギャップは関東で100円、関東以外で50円となっている。

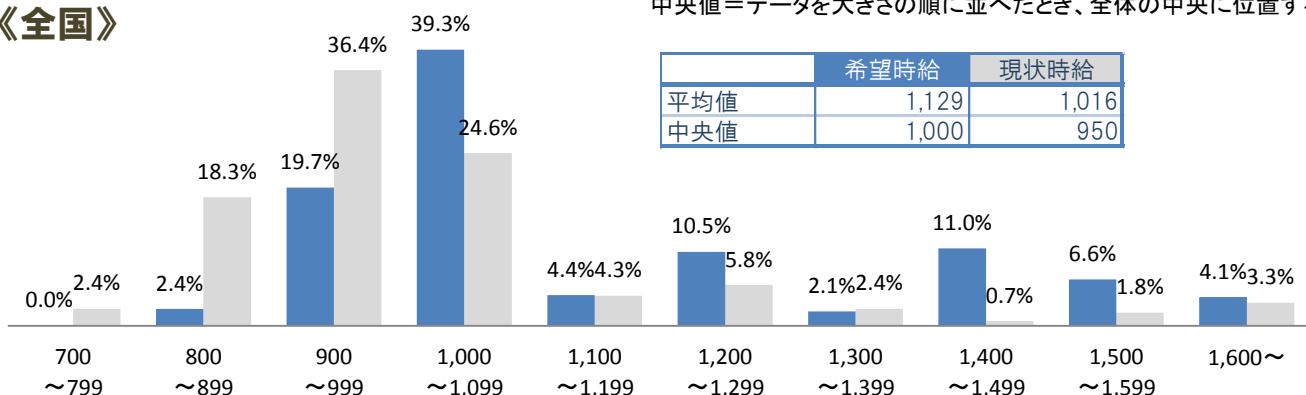
また、関東では時給1,500円以上を希望する学生が17.8%もあり、学生の希望は高まっているといえる。

■ 希望時給と現状時給の相違グラフ

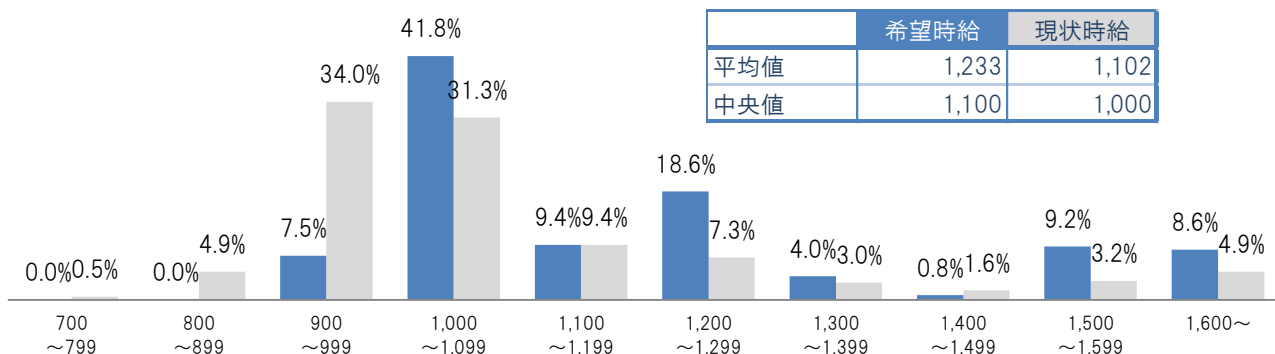
n=1069

《全国》

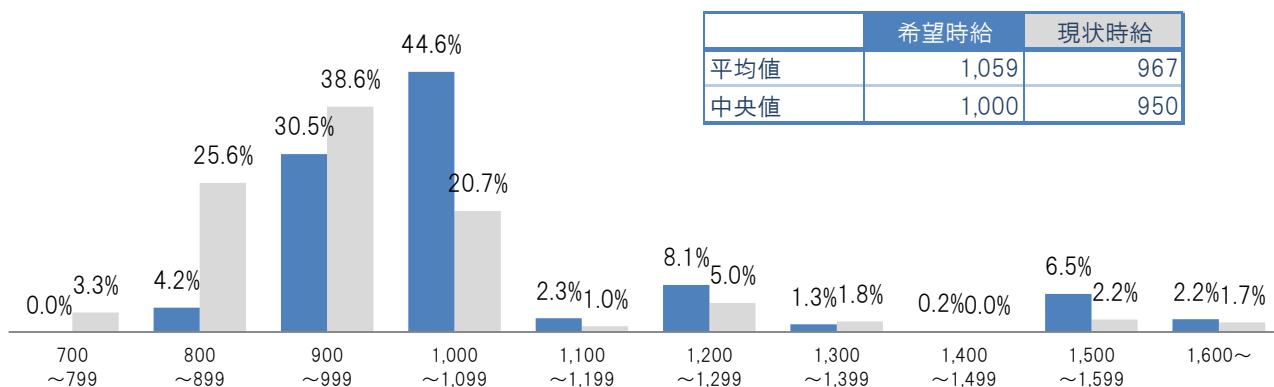
中央値＝データを大きさの順に並べたとき、全体の中央に位置する値。



《関東》 n=432



《関東以外》 n=637



アルバイトと勤務期間と退職について

■ アルバイトを6か月以上継続したい学生は85.9%もおり、定着率は高い

アルバイトを「卒業まで続けたい」と回答した学生が31.2%と最も多く、6か月以上、1年以上、2年以上、を合計すると長期継続希望は85.9%となり、学生のアルバイト定着率は高いといえる。

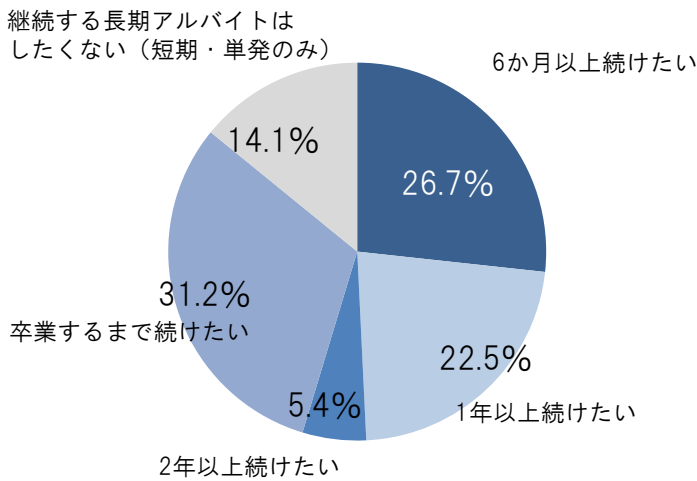
■ 長期と短期のアルバイトを併用する学生は61.9%

長期アルバイトと短期アルバイトを併用している学生が32.4%、今後併用を希望する学生が29.5%となっている。長期アルバイトをしながら、短期アルバイトを探すのが最近の学生の主流。

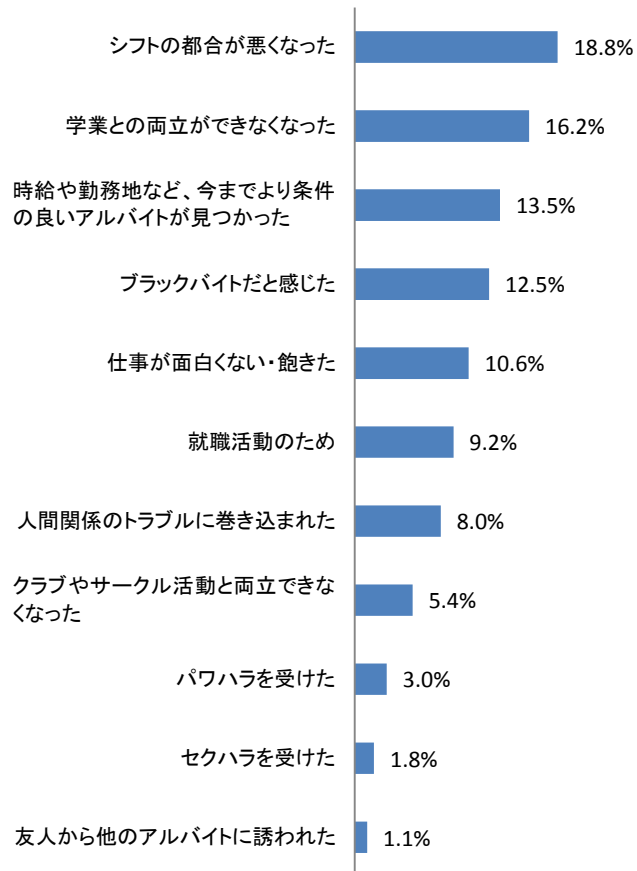
■ 時給など、好待遇を求めてアルバイトを変える学生は13.5%しかいない

シフトの自由度や職場の人間関係など、働く環境を整えれば、学生は簡単にはアルバイトを辞めない。

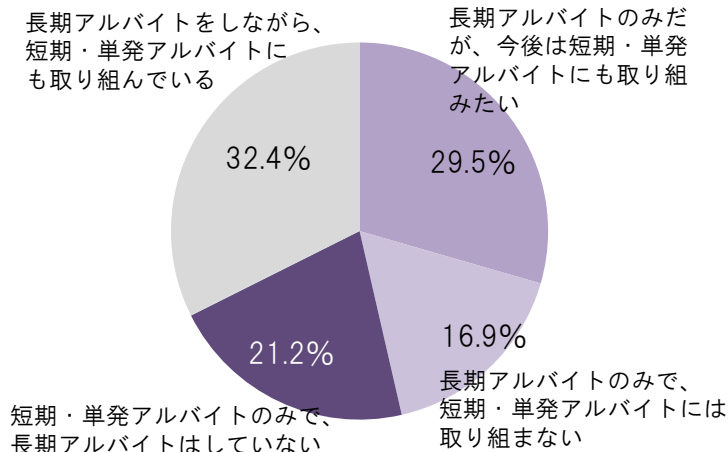
■ 主なアルバイトの継続期間 n=1048



■ アルバイトを辞めるきっかけ n=1057



■ 短期・単発アルバイトについて n=1099



アルバイトを探す時に利用するメディアについて

■ アルバイト情報ネットワーク(aines)の学生支持率は第3位

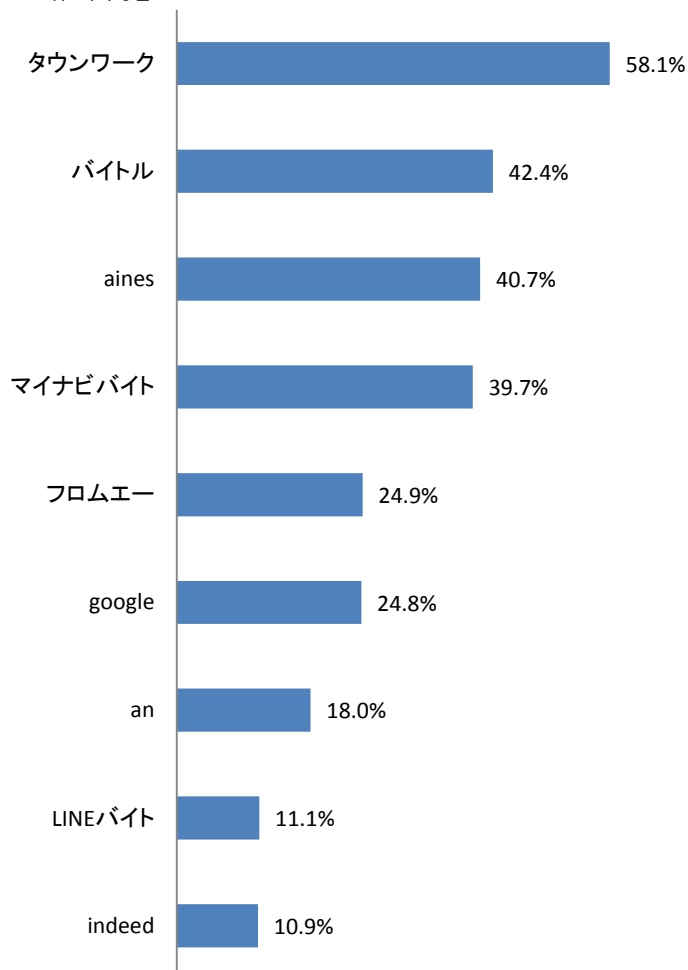
アルバイトを探す時に利用するメディアについて、タウンワークが最も多く58.1%となっている。アルバイトを探す時にメディアを選ぶ理由で最も多い回答が、「情報量が多いから」52.6%となっている。また、「信頼できるメディアだから」36.4%という回答も多く、ainesの利用者が40.7%となっている一因ともなっている。

■ 紙情報を支持する学生は僅か2.3%

「スマホで情報入手できるから」48.5%、「紙情報の方が便利」2.3%を比較すると、圧倒的に紙よりスマホに志向が移っている。

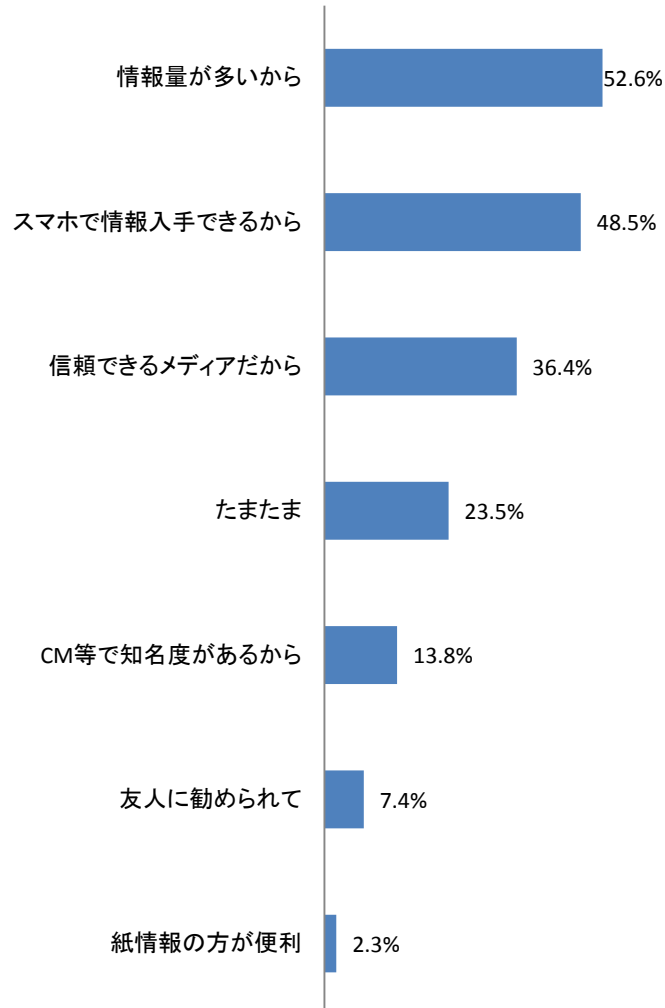
■ アルバイトを探す時に利用するメディアについて (複数回答)

n=1102



■ アルバイトを探す時に利用するメディアを選ぶ理由 (複数回答)

n=1102



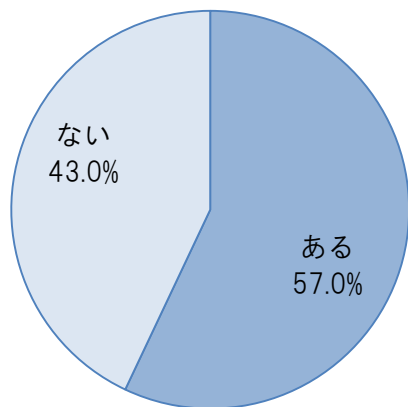
■ 学校のWEBサイトとして学生に信頼され、学生ならではの情報が役立っている

学生アルバイト情報ネットワークの利用について、あると回答した学生は57.0%であった。利用する理由については、「学校のWEBサイトだから」が80.1%で最も多い。また、「学生ならではの情報掲載」や、「学生の勤務事情に合った仕事の紹介」の支持も高く、学生はフリーターや主婦、シニアなどの一般的な非正規雇用者とは違った情報を求めているといえる。

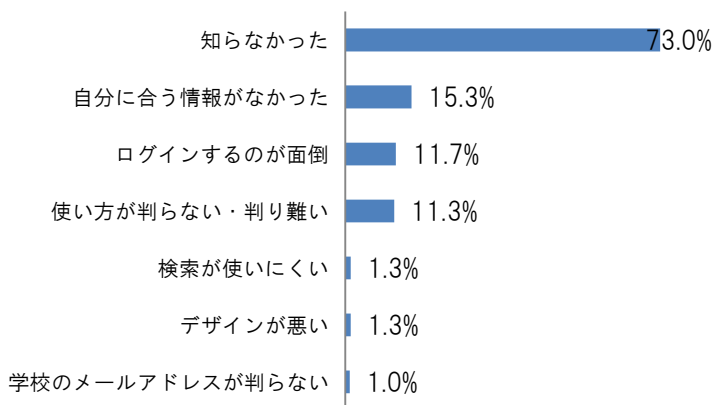
■ 学生アルバイト情報ネットワークを「aines」から「バイトネット」へ名称変更

今後の名称変更については、現状の「aines」支持の回答22.2%よりも、変更を予定している「バイトネット」支持の回答31.6%の方が高かった。

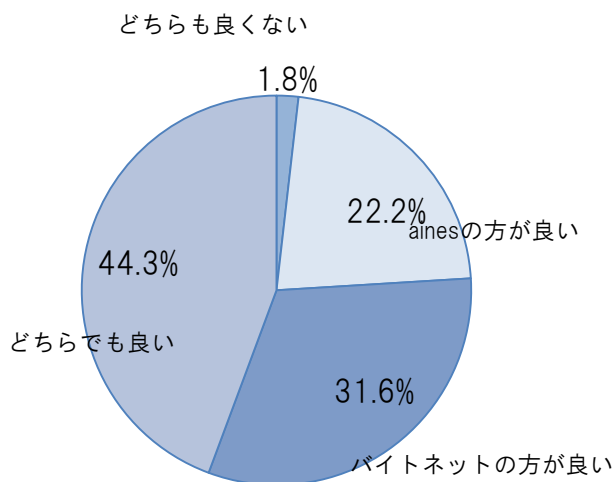
■ 学生アルバイト情報ネットワークの利用有無（単一回答）



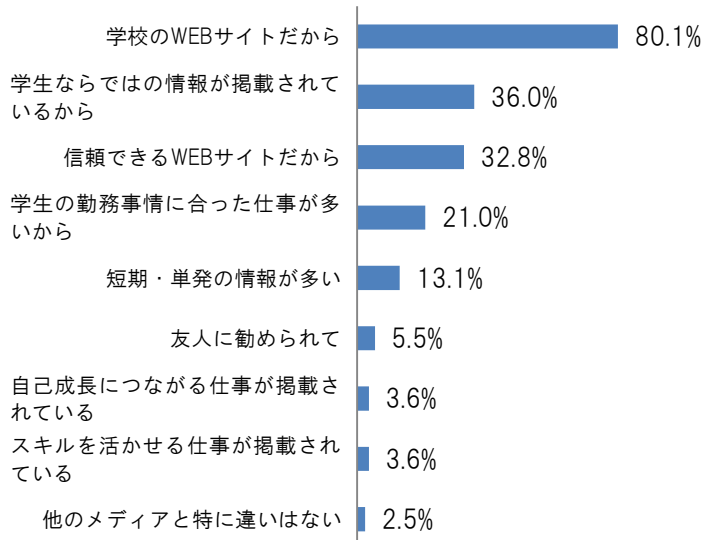
■ 学生アルバイト情報ネットワークを利用しない理由(複数回答)



■ 名称変更の評価(単一回答)



■ 学生アルバイト情報ネットワークを利用する理由(複数回答)



インターンシップの参加状況について

■ 78.9%の学生がインターンシップ参加に積極的

「インターンシップに参加したことがある」と回答した学生32.9%に、「インターンシップに参加したことは無いが、今後参加したい」学生46.0%を合わせると、8割の学生がインターンシップに関心があると言える。

■ 学生がインターンシップに参加する理由は業界研究と、企業や仕事の理解

インターンシップへの参加理由について、「業界を知ることができる」56.9%、「仕事を知ることができる」56.4%、「会社を知ることができる」46.3%の3項目の回答が多い。

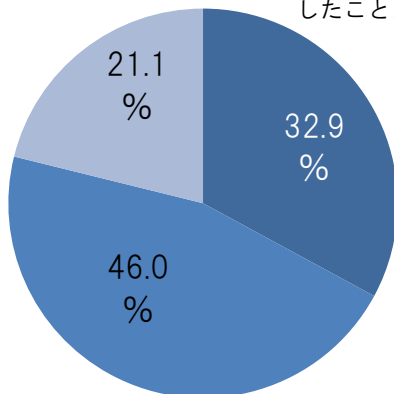
インターンシップへ参加しない理由について、「インターンシップに参加する時間がない」15.0%が最も多くなっている。

■ インターンシップへの参加の有無 (単一回答)

n=1174

インターンシップに参加したことはなく、
今後も参加するつもりはない

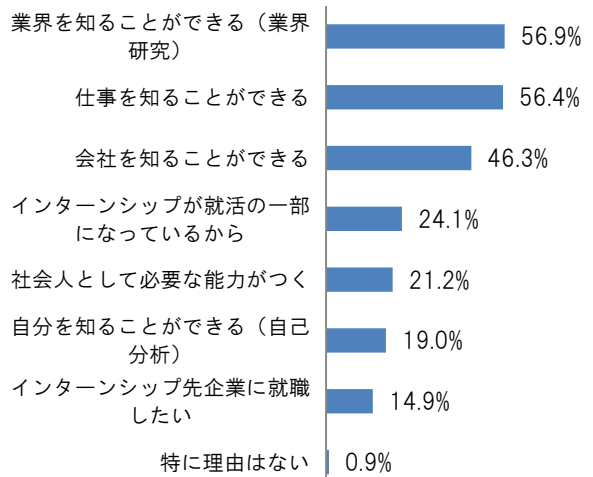
インターンシップに参加したことがある



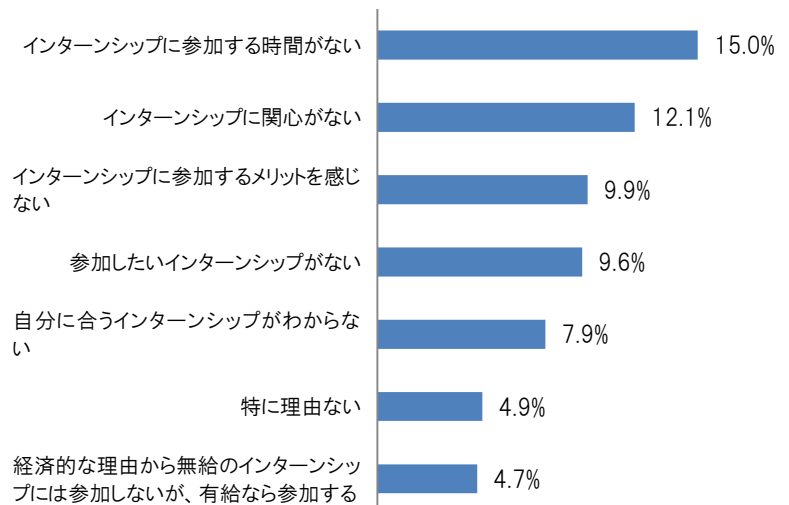
インターンシップに参加したことは無いが、今後参加したい

■ インターンシップへの参加理由 (複数回答)

n=406



■ インターンシップへ参加しない理由 (複数回答)



インターンシップ参加時期について

■ 約3割の学生がインターンシップへの通年参加を希望している

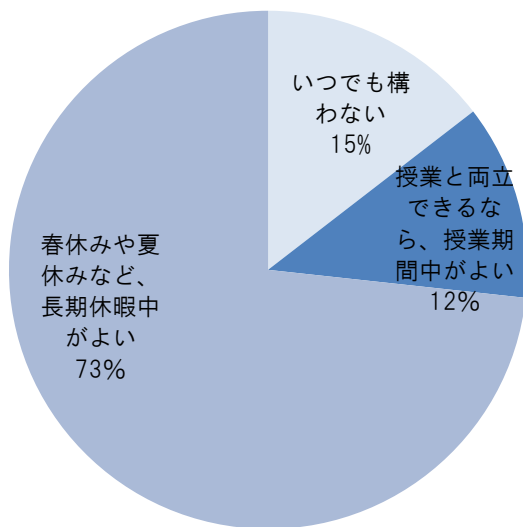
インターンシップの参加時期について、「春休みや夏休みなど、長期休暇中がよい」が73%と最も多いが、「いつでも構わない」、「授業と両立できるなら、授業期間中がよい」と答えた学生も合計27%おり、通年型インターンシップの希望は高まっているといえる。

■ 74%の学生が5社以上へのインターンシップ参加を希望している

「5社以上10社未満」の70%に、「10社以上」の4%を合計すると、4人に3人が5社以上のインターンシップ参加を希望していることになる。長期休暇の期間だけで5社以上参加するには日程的な課題もあり、学生の参加希望社数を実現するためには通年型インターンシップの拡充が必要であろう。

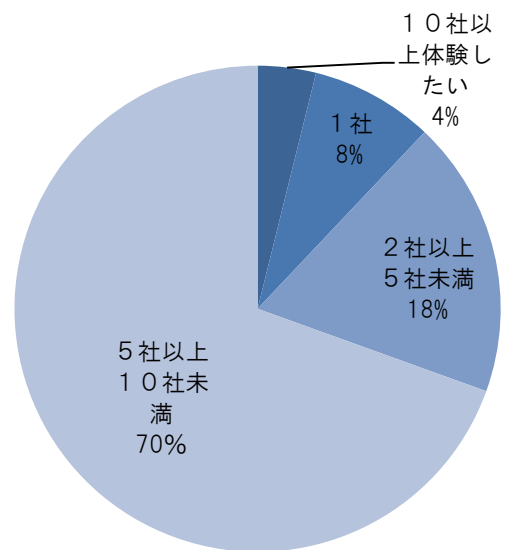
■ インターンシップへの参加時期について (単一回答)

n=913



■ インターンシップへの参加社数について (単一回答)

n=753



インターンシップ形態について

■ インターンシップは2週間以上になると学生は有給を希望

インターンシップに参加したい期間と形態について、「1週間程度」までは無給の支持が高いが、「2週間程度」以上になると学生には経済的な負担もあり、有給によるインターンシップを希望する傾向が強くなる。また、最も学生の支持が高いものは「有給で2週間程度」31.7%である。

■ 長期有給インターンシップを希望している学生の合計は31.8%

「有給で週1～3日程度で長期継続」を希望する学生9.6%に、「有給で1か月以上」を希望する学生22.2%を加えると31.8%になる。日本独自の「1Dayインターンシップ」に参加する学生が多くなってはいるが、責任感が養われ、社会人基礎力を高めるグローバル標準の長期有給インターンシップの支持も広がってきているといえる。

■ インターンシップに参加したい期間と形態(複数回答)

n=915

